

松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」

〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

「大切にされ感」がもてるように！

朝夕は涼しくなり、秋らしさを感じる季節となりました。運動会が終わり、前期のまとめの時期となり、それぞれご多忙な日々をお過ごしのことと存じます。

当センターが主催する研修講座は、夏季休業中はほぼ連日開催して参りましたが、たくさんの先生方に参加していただき感謝申し上げます。

今年度、乳幼児教育講座として、渋谷区子ども総合支援センターでチーフアドバイザーを務める阿久澤 栄 先生をお招きし、「子どもたち一人ひとりを理解するために～関わりの難しい子どもってどんな子どもたち？～」と題してご講演いただきました。「関わりの難しい子どもたち」として、「軽度の発達障がいのある子ども」と「母子関係に課題のある子ども」について、様々な事例を交えながらお話しいただきました。先生のお話によると、最近は母子関係で愛着関係が未熟な子どもが増えており、このような子どもたちがもつ難しさを教室の中で解決していくためには、自分は先生から大切にされているという感情が持てるような関係を築くことが大切であることを教えていただきました。

子どもたちは、親や先生から大切にされているという思いがもてて初めて成長できること、すべての人間には「大切にされ感」が必要であり、そういう思いをもてるためには「声かけ」、特に「ほめること」が大切であることを学びました。学校での教育活動において、たいへん参考になるお話でした。

阿久澤先生の著書である『特別支援教育は「特別」なの？』（玉川大学出版部）が、当センターの蔵書にあります。支援が必要な子どもにどのようにして関わっていけばいいのかを考える上で、とても参考になる本だと思います。一部を紹介します。

『特別支援教育は「特別」なの？』より

特別支援教育は自分たちの足もとを見つめなおすこととして、次のことを述べられています。

☆学級全体の子どもが見えているか？

- ・いわゆる障がいのある子どもだけでなく、自分の学級の子どもたち一人ひとりに対して、その子どもの教育ニーズをつかんでいるか、あるいはつかむための努力をしてきたか。
- ・子どもをいったん受け止めた上で、次の指導を考える余裕こそが、障がいの疑われる子どもたちの指導には不可欠。

☆授業を子どもに合わせて工夫しているか？

- ・子どもたちの教育ニーズに合わせて授業そのものを柔軟に組み立てなおしていくことが求められている。

☆子どもたちのことを話せる雰囲気があるか？

- ・学校全体で気軽に子どもたちのことを話せる雰囲気をつくることが大切。
- ・学校の雰囲気作りには、校長、教頭等の管理職の役割が大切。

研修講座報告その2 ～研修講座の様子をご紹介します！～

B - 2 授業力向上Ⅰ「国語科授業づくりのポイント」 講師 守田 庸一 先生

『読むこと』を中心に具体的な教材を取り上げていただき、論理的思考力、資質能力、主体的・対話的で深い学びの3つのポイントについて詳しくご教授いただきました。参加者からは、「具体的で分かりやすかった」という感想が多数寄せられました。



A - 4 道徳『教科』時代の道徳授業を創る」 講師 杉中 康平 先生

授業づくりを中心に具体的な教材を取り上げていただき、授業の展開で陥りやすいことや45分間（50分間）で何をすべきか（できるか）、また、発問の数や工夫について詳しくご教授いただきました。



A - 5 外国語活動／外国語

「新小学校学習指導要領を踏まえた外国語活動及び、外国語科の指導」

～『Let's Try!』『We Can!』の効果的な活用法～

講師 高橋 美由紀 先生

小学校の外国語活動および外国語科の指導方法などについて、ペアワークなども通じて具体的に幅広く教えていただきました。小中に見通しを明確に持った連携の必要性について改めて認識できたという意見が出されていました。



B - 6 健康教育「学校におけるアレルギー疾患の対応について」 講師 長尾 みづほ 先生

具体的な子どもや保護者の姿を示しながら、学校現場におけるアレルギー疾患などの緊急時に大切なことなどについて教えていただきました。「症状チェックシート」や「学校におけるアレルギー疾患対応の3つの柱」など、学校現場や研修などで役立つ資料も紹介していただきました。

